

(1)「前回の意見整理」に対する質疑応答

委員

商業科・農業科それぞれの良さを融合させながら、今回まとめられた学校像，育てたい生徒像，特長的な教育の学校ができれば，中学校の生徒も興味・関心をもって進学してくると思う。今後も，こういう方向で進めて欲しい。

委員

徳島県は従来農業を基本としてきた県だ。農業について専門高校で教育を受けて，数字につなげて企業として発展させる，将来の職業につながる農業，作物を作ることが体験できる実践的な点は素晴らしい。地域の農業資源を産業につなげることができ，とても期待できる。

(2)「視察報告（A校，B校，C校）」に対する質疑応答

委員

C校が今回の合併の参考になると思う。両方の校舎・設備を利用して一つの高校が運営されており，我々が必要としている今回の合併の形態に似ている。新しく別施設を作るということは経費がかかる。テレビを使つての職員会議は，最新のメディアを使つて上手に運営されているし，距離も似たような条件であり，両方の設備をうまく利用している点も参考になる。

委員

この委員会の結論を出すということが刻々と迫っている。現段階の青写真があれば説明いただきたい。

県教育委員会

この地域協議会で今年度中に報告書をまとめて，県教委にご報告いただくということで進めている。この地域でどういう教育が必要かを最初にしっかり協議し，こういう教育が必要だということが決まると，どういう形で教育環境を整備していくかという話になってくる。今は農業科・商業科を併設するというので，この後，実務者会議からの提案を聞いていただき，この地域に農業と商業の教育が必要だということになれば，新しい学校としての案をまとめたあと，県教委に報告するというかたちで進めていただきたい。

委員

視察した3校とも地域の実情をよく考え，地域を大事にしている。地域の発展につながっていくような内容，改革であったと思う。吉野川市・阿波市での新しい学校についても，最終的には地域の発展につながるような学校ができればと思う。

委員

商と農の関係を考えると両方大事だ。商は農を土台にして発展・活用した分野であり、農は日本人にとっても欠かすことができない分野である。農を基礎としたら、商はその上の活用部分である。食品加工販売がその間をつなぐ部分になるような気がする。

福祉教育はこれから非常に大事な分野になるのではと思う。商と農は福祉とともに資格が多くとれるという方向も大事だと思う。どちらも捨てがたいので、両方残していつてくれればありがたい。商の町鴨島では商が必要としてスタートし、農も同様だ。それぞれの地域の思いで育ってきているので、二つとも良いところを見せ合って伸びてくれれば、素晴らしい学校ができると思っている。

委員

商業は、ITを通じて世界に通用する人物が育成されている。農業は日本の農業の良さを継承していく意味で、農業高校は必要だと思う。商業・農業ともに一緒に伸びていくかたち、C校のような形が一番良いと思う。少子高齢化の非常に子どもの数が少ない中で、どういう特色を持って行くかということと、商業も農業も両方できるような人材が育成される学校が良いと思う。

自分の子どもを育てていく上で、高校へ入学するときも中学校の先生に「今の時代になぜ商業高校か」と言われる。私の場合は、この学校（鴨商）に誇りを持っており、この学校に育てられ、地域の人にも育てられ、商売にも成功したので、この学校なくして私はないと思っている。それだけこの学校に愛着を持っているので、長男もこの学校を卒業させ、商売の跡継ぎをさせている。自分の子どもをやりたいと思うような、商業・農業が一つになった高校を、この話し合いの中でつくっていただきたい。

(3) 協議「商業科・農業科併設のメリットを生かした教育について」

委員

統合の方向性が見えてきた。特に地域社会の中で発展していくということは大切だと思う。ただ、他県の状況を見た場合、総合選択制で幅広い資格取得につながるのか、少し疑問に思う。実際に視察をしてどういう感想を持っているのか。総合的な学習も何年かしてだいぶ落ち着いてきている。小学校は地域の中で活動するというのが多く、中学・高校ではキャリア教育の方へ傾いてきているようだが、メリット・デメリットが見えてきているように思う。導入したての頃よりも冷めてきたように思う。総合選択制の理念は素晴らしいが、高校のわずか3年間で、自分の専門だけでなく他の専門もということになるとどっちつかずにならないのか。視察の感想を聞きたい。

事務局

総合選択制により、資格取得の幅が広がるということに加えて、進路選択の視野も広がっているということであった。

委員

B校は地域連携に力を入れている。開放講座、出前授業など、高校に入る前に子どもに目的意識を植え付けさせるのはすごく大事だ。ただ何となく高校へ入った子とは学習に対する意欲が違う。C校でも、地域連携として、小学校でそろばんの授業をしたりしている。この高校はこんなことをしているということ、小さい頃から意識づけして、あそこへ行けばこういうことができるようになるという意欲を持たせることが大事だと思う。わずか3年間でも、学ぶ意欲によって、中途半端にならずに資格を取ったりすれば、次の教育を受けるにしても有利であるとなれば、資格取得にも意欲的になると思う。高校ができるにあたって、子どもたちに十分に宣伝して、高校のメリットを染みこませてから生徒を受け入れる施策をとらないと、せっかくの良い高校ができて意味が薄くなると思う。

委員

視察に行った3校には食物科はなかったのか。

事務局

ありませんでした。

委員

目的を持つことが一番大事だと思う。それがないと意欲も出ない。目的を作るためには、まずは先生方が意欲を持っているかということに大きく左右されてくる。農業大学・商業大学を出た意欲的な先生に、素晴らしい学校づくりのために是非とも協力をお願いしたい。

新しい高校では、大学進学を希望する生徒に対してどう対応するのか。

事務局

今回は、委員の方々に総合選択制を分かりやすくご説明するために、専門分野の商業・農業・食に関する3科目群に分けて説明させていただきました。実務者会議では、選択科目群の中に普通科目を取り入れることによって、進学したい生徒にも対応してはどうかとの意見でした。

委員

小学校低学年の子は、朝会えば「おはようございます」とか、「さようなら」と言うが、中学校になればとたんに言わなくなり、注意すると色々な言葉が返ってくる。また、高校・大学を卒業しても世の中のことが全く分かっていない人もいる。道徳的なことがわかってない。例えば、目上の人に対するものの言い方、色々な日常的ではいけないこと、言ってはいけないことを、自分本位で言ったり、したりしているという現状である。やはり学校教育は、その人が卒業して社会に出て幸せな人生が送れるのが基本である。それにはやはり就職しても目上の人・同僚と人の和が持てるような、心が豊かな生徒を育てていかなければならないと思う。

特に、今回2つの学校が統合するというところで、道徳的なことを十二分に行う事を生

徒や一般社会の人にPRをして、この学校へ来たら、そういったことも十分指導でき、真面目な人としての心の温かみのある人間が育っていかなければならない。最近、皆さん方も心を痛めている事件が多くなっているのも、外国から日本の国はいつかは滅びるのでは。家族が殺し合いをするというようなことは、国が滅びる元になるということも言われている。この新しい学校ができるにあたっては、勉強もさることながら、道徳的で人間として歩むべき道のわかった子どもが育っていくような学校にしていくことが大事だと思っている。

委員

ただ今の意見は、新しい高等学校を作るのにだけ必要なものではなく、人間の社会を形成していくうえで、最も基本的に身につけていかなければならないことだと思う。先ほど示された新高校の基本方針の育てたい生徒像の中でも、ただ今、委員が申されましたことを、一つの重要な柱として踏まえているので、そのことをいつも忘れないでいただきたい。学校でも社会に出ても、こうしたことが身についた子どもたちを育てることは、素晴らしい専門性を身につけていくうえでも大事なことだと思う。

委員

地域社会の発展に貢献する専門高校ということで、大学ではないので難しいとは思いますが、名物的な先生等をおいていただくことで、そこへ進んでくる生徒も、また大学へ行く人も就職する人も行きやすいのではないかと。せっかく素晴らしい高校のコンセプトができていますので、名前だけでもいい、名物先生的な人をぜひ配置して欲しい。

委員

育てたい生徒像に「身体のたくましさ」「たくましい体」が欲しいと思う。

委員

昨年まで勤めていた海部高校では総合選択制を導入しており、卒業生も出したが、その効果について話したい。総合選択制は複数の学科が必要で、昔はタブー視されていたような時代もあったが、海部高校に導入して、普通科の生徒が就職したい時に、商業の科目である情報処理・文書処理をとって就職を有利にしていたということがあった。一方、情報ビジネスの生徒が普通科の科目をとって、進学をするために自分に必要な教科・科目を選択して進学した生徒もいた。総合選択制がどういうものなのか、生徒や保護者に説明してもなかなか分かっていただけなかったのだが、自分が勉強したいことが学校の中にあれば、それを選択できて進学・就職に有利になるということで、すごく良い制度だと思った。複数の学科がある時に、総合選択制は学科の垣根を越えて、他の学科の生徒とも友達関係になれるというメリットもあるということを経験した。